

平成29年度第2回白河市総合教育会議

議事録

1 期 日 平成29年11月29日(水)

2 場 所 白河市役所 4階 全員協議会室

3 開 会 午後3時

4 出席者

(1) 構成員

職名		氏名
市 長		鈴木 和夫
教育委員会	教 育 長	星 浩次
	教育長職務代理者	金子 英昭
	委 員	鈴木きよ子
	委 員	小松 裕子
	委 員	永山 均

(2) 市職員

職名	氏名
市長公室長	藤田 光徳
市長公室参事兼企画政策課長	吾妻 正明
市長公室企画政策課長補佐兼企画政策係長	藤井 浩司
市長公室企画政策課企画政策係主事	郷 千里
教育委員会事務局次長	齋藤 稔
教育委員会事務局参事兼教育総務課長	水野谷 茂

5 議 事

(1) 市教育大綱に基づく「未来を切り拓く人間力」を育むために必要な教育について

(2) その他

6 閉 会 午後4時

1. 開会

○事務局(司会) それでは、定刻前ではありますが、皆様ご参集しているようですので、これより平成29年度第2回白河市総合教育会議を開催させていただきます。本日は、ご多忙の中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

次に、総合教育会議は公開するものとなっております、本日の会議につきまして

は、非公開とする議事内容はないと考えられますので、原則通り本日の会議を公開とし、傍聴を許可したいと思います、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

それでは、傍聴者の入室を許可したいと思います。

(傍聴者入室)

2. 議事(1) 市教育大綱に基づく「未来を切り拓く人間力」を育むために必要な教育について

○事務局(司会) それでは、これからの会議の運営につきましては、白河市総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により、会議の議長は市長をもって充てることとなっておりますので、今後の議事進行を市長にお願いさせていただきます。

○鈴木市長 それでは、今年度第2回総合教育会議の議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

では、さっそく議事に入りたいと思います。議事(1)市教育大綱に基づく「未来を切り拓く人間力」を育むために必要な教育について、に入らせていただきます。

まず、事務局より資料の説明を求めます。

○事務局 本日は総合教育会議ということで、教育委員の皆様におかれましては、白河市の子どもたちの未来像を見据え、常日頃から考えていることや白河市の教育に対する思いを市長と話し合う場でありますので、忌憚のない意見を出していただきたいと思います。

それでは、皆様のお手元にある資料「市内小中学生PTA代表者と教育委員との懇談会」をご覧ください。こちらは、11月16日に開催された懇談会のものです。白河市の教育について懇談し、その中で主な意見を記載しております。こちらを踏まえて本日は意見交換を行っていただきたいと思います。

詳細については、資料にて確認願います。

○鈴木市長 皆様から、どのような教育が将来を見据える子どもたちに必要なのか、について意見交換したいと思います。

小松委員はいかがでしょう。

○小松委員 親の立場で考えますと、学校で基礎学力をつけることも大切です

が、親が子どもとどう接していくか、ということも重要だと思うのです。

学力を子どもにつけるほかに、親の力をどうやって身につけていけば良いかに悩んでいます。

懇談会の資料にもありますが、白河市は読書に力を入れているまちです。小学校や中学校に司書を配置し、子どもたちに読書を促すことは大切だと思います。これには、親が生活のなかで見本になり、家庭で子どもの意識を整えることも必要だと思います。

先日開催された生涯学習の講演会で、「子どもが成長の折々に見せる興味や反抗に、受け止める立場の保護者の対応は、子どもの育ちに影響する」という話がありました。興味深く聞かせていただきました。ただ、周囲にこの講演会を知っている人が少なかったことから、こういった講演会は親世代の方にもっと周知する必要があると感じました。

- 鈴木市長** 学力だけでなく、子どもや人との接し方、コミュニケーションは重要です。コミュニケーションは、スマートフォンの登場により私達の時代に比べて劣化しているように感じます。人が人を理解することについても同様です。だからこそ、コミュニケーション能力を育むことは大切です。

また、さきほどの小松委員の話にありましたが、子どもの反発や興味を受け止める親の器量が必要です。親や社会が子どもに試されているのです。

では続いて、金子委員はどうでしょう。

- 金子委員** 先日の懇談会の資料にもありますが、教育大綱の「自ら学び、自ら高める人」「自ら判断し、自ら行動する人」になるには、どう育て、教育すればよいか、という相談をされることがあります。確かに、これは難しいことではあります。しかし、これは家庭や学校での、毎日の積み重ねによると思うのです。今日や明日の目標を達成することで、最終的な目標の教育大綱のような人間に育つのだと思います。

また、学校で実力テストを実施し、結果を公表しているのですが、評価の声のほかに保護者から「実力テストのときだけ勉強するのではなく、日々の勉強をしっかりとしてほしい」「勉強以外に掃除等の学校の活動を通して、しっかりと身につけてほしい」という意見があります。

勉強も大切ですが、様々な経験を通して人間的に立派に成長する、ということが子に対する親の願いのようです。

- 鈴木市長** 確かに、教育大綱の「自ら学び、自ら高める」は、すぐには実現することは難しいですね。しかし、金子委員がおっしゃったように日々の積み

重ねが、十年後二十年後に身を結ぶのだと思います。毎日煩雑な作業が生活のなかに多くありますが、それらを少しずつ身に付けていくことが大事なのです。そうして様々な経験をしていくことが必要なのだと思います。

例えば、両親や兄弟、一昔前なら同居や祝い事で集まる親戚と接していくうちに人間を見る目を養っていくのです。

数学などの基礎的な学習のほか、このような能力を養える経験ができる機会をいかにして与えるか、が私達の考えるべきことと思います。その経験が、社会に出てから役に立つのです。

鈴木委員はどうでしょうか。

○鈴木委員 様々な経験とありましたが、私達が行っている「こども教室」もそれに当たるかもしれません。ここでは、年中行事の「団子さし」や「お月見様」など、家庭では廃れつつある昔からの行事を子ども達に体験させています。

○鈴木市長 それは、情緒を養うことにつながりますね。

○鈴木委員 それから、先日コミネスで行われた「しらかわ音楽の祭典」ですが、小学生や中学生、高校生が素晴らしい演奏をしました。コミネスという立派な施設ができてから、子どもたちや指導する先生の意識が変わったのではないのでしょうか。

興味関心がない方は、「なぜあれだけ高い費用をかけて建てたのか」という疑問を持っているようですが、実際に聞くとそれだけの価値があると思うのです。演奏や演劇の成功のために、コミネスのスタッフや市の職員、ボランティアの皆さんが朝早くから仕事に取り組んでいる姿を見ると、官民が一体となって連携しているのだ、と感じます。

○鈴木市長 文部科学省と県の教育庁の職員の方がいらしたとき、コミネスと図書館を見学されたのですが、「素晴らしいまちづくりをしている」と言われました。白河市のような人口規模で、学校に司書を独自に配置したりなどしている自治体は他にないそうです。白河市は、何年も前から人づくりに率先して取り組んでいて、県内でも先進的だとも言っていました。

今年10月に行ったコミネスでのNHK交響楽団の演奏の際にも、コミネスの音響設備が県レベルの施設であると、高評価の声をいただきました。こういった取り組みが、市民の誇りにつながるとも言っていました。

白河市の図書館を毎日利用していた高校生が、上京して大学に進学し、向こうの図書館にびっくりした、という話があるそうです。その高校生にとって、

白河市をイメージすると図書館が浮かぶ、ということです。

同じように、コミネスを利用した子どもが上京等したとき、白河市をイメージするとコミネスを思い浮かべるようになり、それが市への愛着につながると思うのです。

そのため、コミネスや図書館には多額の費用をかけるだけの価値があると思うのです。

続いて、永山委員はどうでしょう。

○**永山委員** 私の白河市の教育に対する考えは、「未来を切り拓く人間力」についてです。小学生や中学生は、「将来立派な人間になりなさい」と言われても、目標を定めることが大変だと思うのです。

私が以前聞いた講演会で今でも印象に残っているのが、「教育を意味する education の語源は“引き出す”こと」ということです。子どもたちの可能性を引き出すために、様々なきっかけを与えて、子どもが自分のやりたいことを見つけるサポートをしていくのが教育である、という話でした。私もそう思います。義務教育では、同じ学習、同じレベルの学習が良いと思いますが、高校になったら、学習の選択肢が広がりますから、得意なものに集中して取り組むのが良いと思います。

子どもは1人1人異なります。勉強が得意な子、走るのが速い子や歌が上手な子、様々です。ですから、人と比べて自分が劣っている、と思う必要はない、という話を卒業式でします。

先日あるテレビ番組で、いわき市の企業が高校生や専門学校生を対象に、ものづくりを体験させるという企画がありました。自動車に試乗等させたりして子どもたちに感動を与え、日本のものづくりの素晴らしさを知ってもらうという趣旨で、6年間続けているそうです。この企画をきっかけにもものづくりの道に進んだ子どももいるそうです。このように、日本のものづくりを支える子どもが1人でも増えれば良いと思います。

教育大綱の中に「世界にはばたく高い志のある人」とあるが、やはり英語を身に付けることが今後の武器になると思います。最終的な目標は、テストで良い点を取るのではなく、「話せる」ことだと思うのです。海外に行った際、あるいは日本に来た外国人と英語で自分の考えを伝えられるようになれば、色々な分野で大きな武器になります。

○**鈴木市長** 教育とは「引き出すこと」、そのとおりだと思います。様々な機会を与え、何を選択するかは子どもたちの判断に任せるべきです。

文部科学省の職員の方が言っていたのですが、「日本の高等学校ほど特徴の

ない高等学校は他にない」そうです。高校を比べる基準は「どの大学に何人合格したか」だけです。

○小松委員 教育大綱は素晴らしいのです。これに加えて、個性が必要だと思います。「静岡市といったらサッカー」のように「白河市といったら〇〇」のような、特徴・個性ができればと思います。あるいは、奨学金以外に特別な能力のある子に対するバックアップ体制があれば、と思います。

○永山委員 教育大綱の「世界にはばたく」は良いことだと思うのですが、親の立場からは「白河で」働いてほしいのが本音です。

○鈴木市長 教育大綱のこの項目は、地元の文化と故郷を背負って国外で活躍してほしい、という意味が込められています。また、世界で通用する人間だけでなく、地域にいても世界とつながっている、という意味でもあります。

上京して「故郷に錦を飾る」というのが成功の形でした。今は、「故郷で錦を飾る」に変わりました。世界を支える人、国を支える人そして地域を支える人がいるのです。個人個人で向き不向きがあります。得意なことの分野が異なるだけで、全く上下関係があるものではありません。

日本というのは、存外生きづらいです。これは、コミュニケーション能力が劣化していることに加え、地域の力が弱まっているせいだと思います。そのせいで、孤立してしまうのだと思います。

子どもが多かったころは動作や行動が遅い子がいても、一緒にみんなで遊んだものです。そして、そういう子も社会に出て、一人前になりました。集団のなかにいるうちに、社会性を身に付けるのでしょう。

○永山委員 自閉症というのは、世界でも日本が一番多いそうです。社会環境が一つの原因とも言われています。

○鈴木市長 日本は戦後、急速に核家族化が進み、個人と地域社会が分断されたように思います。会社と自宅の往復だけの生活をする国になりました。そのため、地域社会と接点がないのです。

○永山委員 大人になってから発達障害になることもありますね。

○金子委員 大人になってから発症するかは分かりませんが、子どものときは気づかれなかったが、対処等せずそのまま大人になり、周囲とのやりとりに

ズレが生じて初めて気がつく、という場合もありますね。

○**鈴木市長** みんなどこか周囲と異なるものでしょう。全ての面、知力・体力・等でバランスの取れた人間はいません。

そう考えると、完璧を求める教育の理想は、現実離れしているといえるでしょう。

○**金子委員** 文部科学省の職員の方が、今の日本の教育を「無個性」であると反省することは、すごく大きなことと思います。国が教育に「無個性」を求めているわけではない、ということ発信すれば、先生方一人ひとりが考え方を変えるのではないのでしょうか。

○**鈴木市長** 今後、教育は大きく変わっていくのでしょう。

話は少し脱線しますが、現在文化財に関する事務は教育委員会の専属業務になっており、地方自治法の特例規定で一般行政の業務にできるようになっています。これを、教育委員会、市長部局のどちらの管轄にしても良いよう法律を改正すべき、との声があるため、文化財研究会という地方教育審議会の下部組織で意見交換会がありました。奈良県知事、京都市長、京都府の与謝野町長と私、何人かで議論しました。そのなかで、文化財は保護だけでなく利活用をすることしないといけない、という話がありました。まちづくりのなかの大きな柱だそうです。白河市もそうですが、京都市、奈良県でも文化財課は一般行政にしているそうです。教育に関する概念がどんどん変化しているように感じます。

それから、ひとづくりというのは全ての分野に関係するものです。文部科学省は、これまでのひとづくりについて深く反省しているそうです。小中学校では様々な事柄に細かく規制をしたこと、逆に高校では無個性な教育をしてきたことです。

先生方がこれをどう考えていくかも重要になります。教育のことを考えられるよう、余裕が与えられなくてはなりません。

○**鈴木委員** 学力の向上にも関連する話になります。私はボランティアで、育児等の支援員をしていましたが、その際に授業についていけない、先生の言うことが分からないといった障害がある子どもに接しました。こういう子どもには、有資格者による支援が必要だと思います。そうして、学力の底上げを図るのがよいと思います。

- 金子委員 13、4年前にも支援員制度はありました。資格のある支援員はいましたが、多くはありませんでした。
- 鈴木委員 以前研究授業で、地元の小学校の授業を見学したのですが、授業の進行を担当する先生のほかに、児童の学習の補助をする先生がいました。ああいったやり方はすごく良いと思いました。
- 金子委員 勉強も大切ですが、児童に対して愛情をもって世話をしてあげられる人が傍にすることが大事だと思います。勉強は教えられなくとも、面倒見のいい人がいれば良いと思います。
- 鈴木市長 私は、これからのために日本は「飛び級制度」を導入すべきと思います。皆に同じレベルの教育をするだけではいけないと思うのです。
15、6歳でハイレベルの大学に入学させるなど、柔軟に対応すべきと思うのです。
こういったエリート教育に日本は嫌悪感があるようですが、国や県を率いる職務を担える人材の育成は、欠かすことができないはずで、ヨーロッパ、特にイギリスでは人材育成に力を注いでいるため、組織の上層部はエリートで構成されています。エリートとそうでない人で優劣があるから反発があるのです。実際には、ただの役割分担の問題なのです。
日本の教育はもっとフレキシブルであるべきです。ただ、日本の先生は教育委員会を気にするため、前例のないことができないのです。
また、教育を全て学校の責任にし、家庭で教育の役割を担わない、という話も聞きます。先生方の業務負担が過重になる原因に思えます。
- 鈴木委員 確かに、家庭でいくらでも躓られることを学校に任せるのはいかなものかと思います。
- 鈴木市長 子どもとともに、親も成長していくことが求められると思います。
職業上、様々な方とお会いしますが、年若い方に対しても頭が下がる思いをしたことがあります。
年齢ではなく、これは経験によって培われたものだと思います。やはり、子どもたちに色々なことができる機会を与えるべきですね。
- 金子委員 子ども特に中高生が無個性になるのは、人と変わったことをしていることをあまり人に知られたくない、やりたくない、表現したくないという気持ちがあるせいかもしれません。それを受け入れる雰囲気クラスや集団にあれば、自然と個性を出していけるのですが、そうでないと自分を表現することを控えてしまうのです。

○**星教育長** 同調する、皆と同じようにしていないと良くない、とってしまったているのですね。

○**金子委員** 先生方の考え方に柔軟性がない、という問題もあります。これは、組織に属しているためでもあります。型にはまった考え方になり、度量が段々と小さくなっていくのです。子どもの多様性を認めようにも、そうできなくなるのです。

○**星教育長** 考え方に遊びがないため、余裕がないのでしょう。だから、教師も児童を受け止め切れしていないのです。何かあったらすぐ報告が求められることも、余裕がない原因の一つでしょう。

○**鈴木市長** 現在はある種の「緊張社会」なのだと思うのです。

知人が県の教育委員会に行ったところ、一年間のスケジュールがキッチリ決められていたそうです。やはり、何につけ柔軟性がないのでしょう。

星教育長はいかがでしょう。

○**星教育長** 白河市の強みは何かと考えたということを良く考えます。以前、歴史文化教育のため色々な地区を回った際に、地域で学校が果たす役割がとても大きいということに気がつきました。これは白河の強みとして大事にしなくてはならないです。

また、地域と学校のつながりも大切にしていきたいと思います。地域の人材や資源を活かすため、地域と学校が一体となっていければと考えています。保護者ともつながっていければ、より良いと思います。保護者目線に立って学校の姿を考えることも大切だと思います。

それから、何らかの形で地域に貢献していきたい、と考える子どもが多いようです。先日行われた「しらかわ郷里マラソン」でも、その様子が伺えました。小野田小学校の子どもたちが走り、それを釜子小学校の子どもたちが応援する、そして補助員として中学生が参加する、という姿を見ました。

○**鈴木市長** 中学校の意見交換を見ると分かりますが、子どもながらに一生懸命考えています。愛郷心がとても強いです。そういうところをどうやって伸ばすかが大切です。五箇や大信などは特に地域とのつながりが強いです。

地方都市は愛郷心が強い人が多いです。6万人規模の、地域を肌で感じられる都市がちょうど良いのです。教育もそうかもしれませぬ。教育環境について、白河は悪くないです。学力は県内では高いほう、スポーツのレベルも決して悪くないです。文化芸術についても、コミネスもできましたのでこれから高くなっていきます。バランスが非常に良い地域だと思うのです。あとは、学校と家庭のつながり、地域コミュニティとのつながりをどう支えていくか、が課題です。

- 鈴木市長** 今後の参考にいたします。他には何かありますでしょうか。
ないようですので、これで議長の任を終えたいと思います。ご協力ありがとうございました。

3. その他

- 事務局（司会）** ありがとうございました。それでは、次第3その他となります。

(特になし)

4. 閉会

- 事務局（司会）**
以上をもちまして、平成29年度第2回白河市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。